

第3種郵便物認可

あなたの安心

盗聴器や盗撮カメラは、どのように売られているのか。東京・秋葉原の電気街を訪ねた。

路地に面した店頭で防犯カメラが並ぶ店に入った。外見はどう見てもカメラに見えない「たばこ型カメラ」や、2、3センチ四方の箱形になった小型カメラが1万円台から6、7万円でガラスケースの中に陳列されていた。

で小さくする必要はない。まさしく盗撮のために作られた物だと、ある専門家は指摘する。小型で外見が「擬装」された物もあり、使われ方によっては撮られていることに全く気付かないだろう。さらに店の奥に入ると「盗聴器」の張り紙があった。並んでいたのは、一見、何の変哲もない延長コードや電卓、置き時計、パソコンのマウスだ。ただ、値段は3万5万円とかなり高い。これらの商品札をよくみると「会話用発信器」とある。いずれも、身近な日用品に「擬装」した盗聴器だ。

盗聴・盗撮を防ぐ④

インターネット検索でも「必要な機器を全国へお届けします」とうたう盗聴器の販売・レンタル専門店のホームページが出てくるなど、ネットでも容易に入手できる。こうした盗聴器や盗撮カメラがどのくらい出回っているのか、統計はない。盗聴器の場合、NPO法人日本情報保安管理協会では年間30万個以上が販売されているとみて、義務が難しい。過去の盗撮事件

外見「擬装」して販売

をみて、身近にあるカメラ付き携帯電話や家庭用ビデオカメラも悪用されてしまっている。

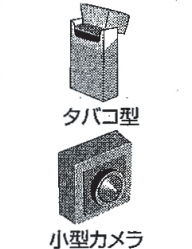
どんな機器があるの？

- ① 外見を擬装したタイプも
- ② 価格は数万円程度
- ③ 小型化、高性能化が進む

<盗聴器の例>



<盗撮カメラの例>



機器の小型化、高性能化が進むにつれ、盗聴、盗撮行為に気づきにくくなっている一面もある。専門家によると、電波探査をすり抜け、市販の盗聴発見器では見つけられない構造になった機器も市場に出回り、技術の「いたちごっこ」も続いているという。いまのところ、こうした機器を販売、購入することについては何ら規制がなく、使用する人の「良心」を信じるしかないのが現状だ。

★ご意見・体験は、メールseikatsu@asahi.com